

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	アプリ児童デイサービス陽だまりの丘			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 10日		～	令和8年 1月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 10日		～	令和7年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 21日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童個別への対応や目標選定の枠が広く、成長と共に獲得できるスキルを増やすことができます。	学校ではできない活動や工作、レクリエーションの考案など	児童の特性なども考慮し効果的なツールの作成や、理解するためのツールの作成などが出来ると良いと考えています。
2	児童やご家族様に寄り添った支援内容の作成を行っています。	ご家族様や児童個別に合わせて目標を選定しています。スモールステップを意識しながら段階的に目標を達成できるよう努めています。	目標を達成できない場合の判断や手段の変更などを逐次確認して行えるように考えています。
3	卒業の際に、就業又は生活介護で行う内容の練習や積み重ねを行うことでスムーズな移行ができます。	就業や生活介護移行の際に、移行先の施設へ訪問し行われていることの内容把握を行い、移行前に練習などを行っています。	移行先の内容以外にも、整容や礼儀作法なども含め社会に出る前の練習なども行えるよう考えています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員スキルの平準化と意識の統一	パートさんなど研修の機会が少ない職員がいる 児童の支援計画・目標の周知	最低月1回の研修は行われているが、パートさんを含めた職員の研修の機会を増やすこと
2	地域交流の不足	固定観念などから一緒に活動を断られるケースや、施設の利用を断られてしまうこともある	地域に根差した施設を目指すためにも、ゴミ拾いや買い物レクなどから施設があることを覚えてもらうこと。近くの公園で他の児童と遊んだり、地域の人々の目に触れることで施設の存在をアピールすること
3	職員の危険察知の対応など	事故が起きる前の児童の行動から、危険を察知し行動を止める予測や他に注意をそらすなど、児童福祉において難しい部分ではあるが職員によって様々であること。	研修の機会を設ける。全国の事例を学ぶ。児童の性格や行動などを学ぶ、危険予測研修の実施など